

恒例の高瀬蔵ガラクタ市が開催！

それぞれの家庭から提供されたガラクタ(失礼！)を集めた恒例の「高瀬蔵ガラクタ市」。まだまだ宣伝不足というものの、恒例行事となったと感じるお客様の様子だった。

常連さんも多く見られる中、初めての方など多数ご来場いただいたが、出来れば地元商店街や高瀬蔵関係の方にも冷やかしく半分覗いていただきたいもの…。商品もお客様の品定めで一体何が売れるやら、こんなものも売れたとびっくりする場面も。

来年もスタッフとしての応援や、面白い商品の提供をよろしくお願いしまーす！



品定めするお客さんで賑わう会場

会員拡大のお願い

常々より会員の皆様方にはNPO法人高瀬蔵の事業運営につきまして、絶大なるご支援とご協力をいただき有難く感謝申し上げます。本年度で開館10周年となりますが、年を経るごとに会員やスタッフの減少が懸念されるところです。つきましては、会員の皆さまより新規会員やボランティアスタッフの方のお誘いを頂きますようお願いいたします。（事務局）



NPO 法人 高瀬蔵

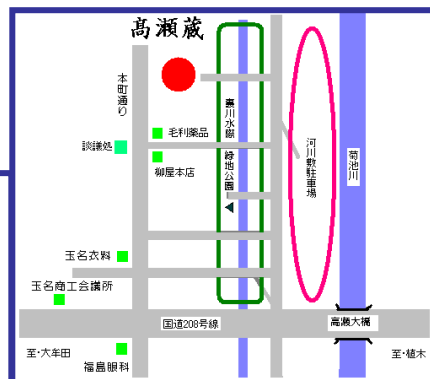
熊本県玉名市高瀬 155-1 (〒865-0025)

TEL・FAX 0968-72-2480

E-MAIL takasegura@aria.ocn.ne.jp

URL <http://www.tamana-cci.or.jp/NPO/indexf.html>

開館時間 10:00～24:00(イベント開始時間により変更あり)



◆◆◆ 蔵開館 10 周年 ◆◆◆

高瀬蔵は、開館10周年を迎えます！

高瀬蔵は、「高瀬！くらしの文化継承と創造拠点」をコンセプトに、
様々なイベント事業が展開され、まちの核として賑わいを創出してきました。
これからも高瀬蔵を末永くよろしくお願いします！



改修後の高瀬蔵

■平成17年の開館間近の高瀬蔵■

高瀬蔵10歳を祝う会

**4月25日(土) 18:00開宴
21:00お開き**

入場無料

高瀬蔵の開館10周年を祝うパーティーです。
ステージでは、10年の歩みをお楽しみいただきます。
また、飲み物やおつまみ・軽食の販売もあります。
お気軽にお越しください。

開館10周年に際し、理事・会員の皆さんから寄せられた思いを紹介します！

開館 10 周年おめでとうございます。縁あって初代理事長を務めさせて頂きましたが、どうやって運営していったらいいのか試行錯誤の 4 年間でした。私自身が音楽専門なので、音楽会などの催しを幅広く開催し、多くの皆様に喜んで頂きました。多目的ホールなのでアイデア次第でどんな会場にでもなることの利点があります。マスコミによって大分周知して頂いたと思いますが、もっともっと多くの方々に気軽に利用して頂きたいと願っています。

片山 敬子



「高瀬夜嘶」13 年間のご支援に感謝

平成 14 年度からはじめた「高瀬夜嘶」は、平成 26 年度末で 13 年間、通算 123 回の開催でした。玉名の文化の向上にすこしはお役に立てたでしょうか。郷土の歴史、いま地域に貢献している方々の活動、文学・民話・音楽など、規模は小さくても話題豊富な教養講座を提供できたのではないかと思います。永年みなさまの温かいご支援をいただけてきましたが、ここでいったん区切りをつけ、平成 27 年度から新たな企画を考えています。 「高瀬夜嘶」主宰 森 高次



12 年前、住人がいなくなった埃だらけの猿渡家肥料倉庫でのライブが思い出されます。

その後、多くの人の努力によって、現在の堂々とした高瀬蔵に変身しました。ある時は胸を揺さぶる音楽が奏でられ、ある時は楽しくお酒を飲み交わしたり、イベントを楽しむふれあいの場となり、又ある時は静寂の中で真剣に学びの時を過ごしたり、高瀬蔵のおかげで沢山の事柄を体験し、感動することができました。沢山の方々と交流をもてたことが何よりの宝物かと思えます。皆さん、ありがとう！これからもよろしく！

副理事長 猿渡 公予



私は福岡県久留米市の出身で、高校までは久留米で過ごしました。大学から熊本生活がスタートし、社会人となって途中 9 年間は東京で仕事をしていたのですが、現在は熊本市で建築設計事務所を開設しています。

玉名市とは縁もゆかりもない私でしたが、ある方との出会いにより 1997 年（たしか第 7 回菖蒲祭り）から高瀬にお邪魔するようになりました。それから 18 年が経過しましたが、その間設計を担当させて頂いた「高瀬蔵」が完成し、今年で 10 周年を迎えるというのは感無量であります。

たかが 10 年、されど 10 年！「NPO 高瀬蔵」はたくさんの方々のご厚意に支えられてきました。少子高齢化時代に突入する今だからこそ、文化創造拠点である「高瀬蔵」をあらゆる世代の交流の場とし、より一層活用していただければ幸いです。

まちづくり推進部会長 坂井 信彦

高瀬の核として発足した「高瀬蔵」。私はこの 10 年、自主事業以外でも主に音楽関係に関わってきました。著名な音楽家達も利用され、高瀬蔵効果は九州はもとより、とおく関東までその名を知らしめたと思います。

もとを言えば、商店街が活性化し、多くの人がこの町に足を運び、この地で事業を展開する方々が集まり、人の絶えない町づくりを目的としてきた訳ですが、今や小売店が消えゆく時代なんです。そこをふまえ、我々は何をどう考え、どのように行動すべきか、蔵を通して考える時代がきてるかもしれません。

副理事長 原 久敏

ミッション

NPO について語るときに、“ミッション”なくしては語れない。

“ミッション”とは何か？ Mission＝使命である。その NPO が目指すものは何か、何を目的として活動していくのか、何のためにその NPO を設立したのか？

では、私達の NPO 法人高瀬蔵のミッションとは何か？ 法人の基本規則である定款において、NPO 法人高瀬蔵の目的として第 3 条に次のように書かれている。

「この法人は、地域で培われてきた文化を再発見し、尊重し、ふるさとへの愛着を育み、地域文化の未来への展開を図る。併せて、玉名地域の人々及び来街者に、楽しさと感動を提供する事業を、高瀬蔵を拠点として行うことにより、中心市街地の活性化に寄与することを目的とする。」

これが NPO 法人高瀬蔵の設立趣旨であり、ミッションである。NPO 法人設立前から関わって来た者として大変恥ずかしい限りだが、一読しただけでは意味がよくわからない悪文である。悪文ではあるが、NPO 法人高瀬蔵の存立意義を表しているので、おさらいをしたい。

前段で「地域文化の再発見とその継承」を謳い、後段で「高瀬蔵を拠点とした事業による中心市街地活性化」を目指している。すなわち、NPO 法人高瀬蔵のミッションは

- ① 地域文化の再発見と継承
- ② 高瀬蔵を拠点とした事業による中心市街地活性化

の 2 つである。

- ① の代表的なものとして、「高瀬夜嘶」や「高瀬職人塾」が挙げられるだろう。
- ② は高瀬蔵で開催した様々なイベントがあるが、継続的な取り組みとしては、その活動の中核を担ってきた高瀬まちづくり協議会のおもてなし大作戦であり、修景事業である。

この 10 年の NPO 法人としての様々な活動や取り組みは、決して小さくはない成果を挙げ、少なからず自らのミッションを果たしてきたと言えるのではないだろうか。

しかしながら、この間、NPO 法人高瀬蔵のミッション＝使命を会員の皆さんに継続して訴え、きちんと共有してきたかという反省もあり、同時に、NPO の体力の低下をひしひしと感じつつ、NPO 法人の組織と事業を継続することに汲々としていることに危機感を感じていること最近である。

それでも、みんなで NPO 法人を 10 年やってきたというのは評価されてよいと思うし、素直に 10 周年を祝いたい。

そしてこの 10 周年の機会に、時に忘れがちな私達のミッションについて皆さんと確認し、これまでの歩みを振り返り、これからどんな活動をし、次の 10 年を歩んでいくのか、あらためて語り合いたいと思う。

2015 年 3 月 10 日 理事 清水千尋

開館 10 周年おめでとうございます。私は、ボランティアスタッフとして参加するようになってからまだ 4 年ほどですが、高瀬蔵には沢山の魅力があると感じております。

先輩方が築かれてきた素晴らしい取り組みが続いていくようにと、現在インターネット上の Face book で、高瀬蔵の雰囲気や活動を発信し、繋がりを深めていく試みを始めております。次世代を担う若い人たちが、活動に参加しやすい環境作りにお役に立てれば幸いです。

会員 佐藤 哲郎